「知る」ことから始まる進路学習



校長　　鈴木　香子

１年生の進路学習の目標は、「知る」です。働くことについて知る、自分のことを知る、そして将来の進路について考えるための土台をつくることを大切にしています。

Ｂ部門１年生は進路校外学習として、株式会社ドコモ・プラスハーティの見学をしました。見学後の感想を読むと、「清掃をしている時の集中する姿が尊敬できると思った」「将来の自分の姿をイメージできた」など、働く人たちの姿から多くのことを感じ取っていたことがわかりました。また、「ていねいな声かけをしていた」「相手への気遣いをしている人がいた」といった感想もあり、仕事そのものだけでなく、働く上で大切な姿勢や人との関わりにも目を向けていたことがうかがえました。半日の見学でしたが、生徒たちにとっては多くの発見があり、働くことを身近に感じる貴重な機会となりました。

その後、10 月９日から 13 日までの５日間、校内実習に取り組みました。実習前の激励会では、初めての実習を前にした緊張が伝わってきました。２・３年生の前での発表では、声もちょっぴり小さく、自信なさそうな表情が見られましたが、「頑張りたい」「やり切りたい」という気持ちはしっかりと伝わってきました。

そして、実習後の報告会。そこには、激励会の時とは明らかに違う１年生の姿がありました。堂々と前を向いて話す姿、はっきりとした声、自分の言葉で頑張ったことやこれからの課題を語る姿に、５日間の実習をやり遂げた自信が表れていました。一人一人が確かな成長を見せてくれたことを、とても頼もしく感じました。

わずか１か月足らずの間でしたが、生徒たちは進路校外学習で「知り」、校内実習で「やってみる」経験を重ねました。働く人の姿から学び、実習で挑戦し、やり遂げた経験は、生徒たちにとって大きな財産になったことと思います。

実習報告会で、自信に満ちた表情で発表する１年生の姿を見ながら、「知る」ことが「できるかもしれない」という自信につながり、その自信が次の挑戦への力になることを改めて感じました。これからも様々な経験を通して、自分らしい進路を切り拓いていってほしいと願っています。

令和８年 11 月

